



# や

No. 27  
2007.3.10



これは世につたえておきたい  
かたっておきたい  
わが胸の底から真実のおもい  
人生幾山河のめぐりあい  
あの日の風やひかり そして空のひとひら  
哀歎のかがり火に生きた幾年月の路  
「自分史図書館」は その証言館です。



藍青の空  
堤 清

哀歎にとどめさしたる鋭きこゑの  
百舌鳥は時雨の裏に隠れつ

移りゆく世の片隅にかすかにて  
歌あり歌に抛る命あり

父の一生にとどかむ後の幾年を冬木  
ほの立つ地に怖れき

のぞきみる望遠鏡のくらやみに  
救ひのごとく星ひとつ輝る

ことごとく言葉は虚しあかねさす  
昼の無窮に白梅の咲く

(佐賀在・「ひのくに」同人)



消印  
綾部 榎城

一枚のハガキである

消えてゆく

歳月と時間を押印して

日々の片隅で

確認するくらし

突如

届けられることばの

バレリーナ

白鳥の姿態で漂う

詩集「呪幻」(福岡市早良区在住)



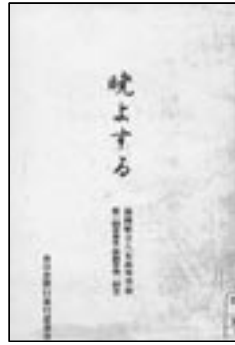
## 私の稀観本ノート その27

○半眼抄～若杉 慧

椎窓 猛

昨今、若杉慧という作家について  
ご記憶の方はさして多くはないと思  
われる。戦後一時期、『エデンの海』  
といった小説を書いて知られたこと  
もある。この一冊は、昭和47年、木  
耳社の発行。定価1300円。堅牢な  
装幀である。この作家は広島の師範

出でながい間教師を勤め、のちに高  
名となった島尾敏雄の綴方をみてや  
ったこともあるといった話もこの本  
には書かれている。昭和5年ごろの  
話だ。序に著者は「人生は結論も終  
末もありはしない。人間みんな未完  
成のまま死ぬ。それをそのまま観ず  
るのが則天去私というものである」  
私はこの作家の仕事に注目を払っ  
ていた時期があった。



○心のガーデニング  
読書の愉しみ

福岡市南区の六百田麗子さん、矢野洋子さん、池田典子さんたちの手による読書ガイド雑誌。発行のたびに自分史図書館へご恵贈いたゞいる。1・2月号でNO91冊目。表紙の植物ひとことメモ、田平靖子さんの解説。「ハクサンボク（白山木・山照ヤラテラシ）スイカズラ科の常緑低木。深緑色の葉は強い光沢をもつ故に山を照らす。寶石のようなつややかな赤い実をつけるとのこと。写真は「くじゅう写真館」の川上信也さん。

○暁よする  
八女高等学校  
第3回卒業生文集

はしがきに「第3回生の結束は強い。毎月第3月曜日には集まって「三月会」この会の大将「直しゃん」こと、平島直吉氏、平成17年秋10月急逝。そのありし日も偲びたいと、この一冊。さらには、ここに記した「自分史」を次代の子や孫にも伝えたいと発行の挨拶。  
編集発行人の江里口充さんは、この冊誌の名簿に、昭和28年卒業当時の同窓会名簿を掲載しているのが特色と語る。なるほど忠見村やら光友村、福島、羽犬塚町がちゃんと生きている。

○生活にゆとりを  
住みよい村づくり運動  
—福岡県広川町における農業振興事業—  
榊 正弘著

榊さんは、八女工業の卒業でありながら、家業の農業そして製陶業一筋、ふるさと広川の土に生きた人の貴重な村づくり報告書である。終章に榊さんは、「非農家の方もまた自分たちが気持ちよく広川町で生活できるのは、農家の皆さんたちが森林緑を一生懸命手入れをし、水路の手入れをし、川の水が汚れないように努力している——という理解が欲しいし、きれいな農産物をお返しする」——そんな村づくりをと率直な提言。緑の環境につつまれ、うるおいのある文化の香り高い町をとの榊さんの願い。

※昭和20年一家朝鮮・芙蓉面扶江里の町より引揚げ、山あい八女の山村へ。歌人前田夕暮に師事。昭和23年死去。長女塩塚洋子さんから姉弟の手により遺稿歌集出版（2006・2）

在鮮の十年余のひたむきなわが生きの日をうたがはむとす引揚荷物まとめていまか発たむとす空家のそばのみぞそばの花置きすててゆくなつかしの学校みゆ温かそうなり朝光のなかあした風吹けばこぼる竹やぶのつゆの音さへなつかしきかな柴の葉をくべてあたらばあたたかき山の匂ひの漂いにけり

歌集“吹生”

塩塚常樹

編集掌記

▼「Ya」でとりあげて紹介してきた本はほとんど限定本、そして自費出版である。古本屋を経営しながらの直木賞作家久根達郎さんの古本に関する随筆は面白く関心を寄せているが、『本の気つけ薬』もまさに妙薬。▼限定本とは一部以下をさす。太宰治の『駆け込み訴へ』は三百部限定。現蔵書目録④ができます ¥100 円80 (郵便切手可)

**自分史図書館**

入館無料  
開館 午前9時～午後5時  
閲覧希望の方は予め電話でご確認下さい。  
貸し出しはしていません。

〒833-0032 筑后市野町423-8  
TEL・FAX 0942-53-8122  
西鉄バス野町停留所より徒歩5分  
インターネットでもご覧になれます。http://www.jibunshitosyokan

▼「Ya」刊行すでに3年目。これまでに掲載紹介した本は何冊になるであろうか。新聞の書評欄にとりあげられるのは、著名な、大手出版物がほとんどで、書評者も自分の手で自分の眼で発掘し、感動の思いで書かれたと思われるものはめったにない。どの新聞も毎週日曜日に読書欄を設けているが、これはすばらしい本の紹介だと読むことは少ない。

（自分史図書館長 椎窓）  
数が少なく、三百万円ぐらいするとのこと。限定本には朱墨で番号を入れる。残さざるを得ないのが四十九番、死と苦で、縁起が悪い。しかしモノは考えようだ。四はよん。読んで、九、嬉遊だ。楽しみ遊ぶ。読んで、笈でもある。笈を負って、遊学の途につく。なにことも解釈次第で善くも悪くもとられるという出久根説である。限定本についての思い出集など投稿していただけませんか。お待ち申し上げます。

受贈図書紹介は今月休みます。